

## 読図とナビゲーション ～ナビゲーションの鍵は準備(プランニング)～

### 読図の準備

覚えておく事 1/25000 図上の 1mm は地上の 25m → 4mm で 100m と覚えよう  
 等高線の主曲線は 1 本あたり 10m、計曲線は 50m  
 基本的な記号 道 (境界線と間違えないよう注意) 崖 岩 建物 送電線 etc  
 地形図の上方向は「真北」 コンパスが指すのは「磁北」

磁北線を引く 注記の「磁針方位は西偏約 $\circ$   $\circ'$ 」をもとに磁北線を引く (換算表)

### 等高線を読みこなす ～読図のハードル～

☆沢と尾根を見分ける

尾根・・・・・・・・・・ピークに対して出っ張っている

沢・・・・・・・・・・ピークに対して凹んでいる (水流の有無に関わらず)

尾根・沢の方向・・・等高線の曲がり方がより鋭くなっている部分に注目

☆傾斜の緩急を見分ける

等高線の間隔が広い→傾斜が緩い場所 等高線の間隔が狭い→傾斜が急な場所

### プランニング ～1/25000 図を使って計画を立てる～

行程に区切りをつけておく ～たくさんの物を数える時のように～

- ・明確な特徴物があるか、複数の理由や特徴物で特定できる場所で大きな区切りをつける
- ・大きな区切りの中に少し曖昧でも特徴のある場所で細かい区切りをつける

コース上の地形変化を予測する

- ・傾斜の変化 進行方向の変化 コル、ピークをいくつ越えるか 出合う沢、尾根の数、方角
- ・トラバース道では、何本の沢、尾根を横切るか

尾根の盲点—表現されないピーク、読み取りづらいコルもある

チェックポイントを決めておく

☆進行方向を確認すべき場所 (ピーク 尾根の分岐点 沢の出合等)

☆進退を判断すべき地点 (引き返せない地形、残された時間、日数、食料、体力)

どんな間違いがあり得るかを見つけて作戦を練っておく

☆ 迷いやすい場所 広い場所

☆ 引き返す時に迷いやすい場所 例えば主稜線付近で支尾根が広がるどころ

目印を置くことも考えておく 視界が悪くなったらどうなるか

尾根がそれまでの進行方向に伸びていても、ルートは屈折しているところ

「尾根沿いにまっすぐ登ってきた」という勘違いから、何気なく通過してしまうミスに注意

☆迷いやすい場所を進む方法 間違えづらい方法

## ナビゲーション ～現地でルートを維持するために～

**観察** 自分の近くの地形をよく観察して予測と照合 複数の理由、特徴物で現在位置を特定

**確認** ～確かな事実を確認する。自分に都合よく考えていないか見つめ直す。～

地図を整置して確認

コンパスに進行方向を記憶させる（コンパス 1・2・3）

特に頂上から下り出す時、進行方向を確認

補助として高度計も利用（正確な標高が確認できる場所で必ず高度を補正）

確実な特徴物で位置を修正する

※遠くの山との同定にとらわれない

- ・山では視界が充分でない場合がよくある
- ・角度を精密に出すことは困難

**記憶** 通過するポイント（特徴物）をしっかりと確認（認識）する

## 迷った時

はっきり確認できる場所まで、できる限り来た道に戻る

※しっかりした確認を続けてきていれば戻りやすい

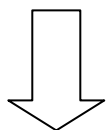
偵察に出る前に予測 ～予測なしに動き回る価値はない～

複数の理由、特徴物で現在位置を仮定しておく

仮定が正しければ、偵察に進んだ先がどうなっているはずなのかを予測してから動く

※それでもまず、迷わない努力を怠らないこと、

迷っても被害を最小限にとどめる策を持つことの方が断然大切です。



何があっても行動しきる体力

弱い心を振り払える体力・強い心

ビバークの備え など